

平成 30 年 10 月 15 日

白根学園見学要録

施保連交流部会長 大月和真

平成 30 年 10 月 12 日(金)午後 1 時 30 分～4 時、社会福祉法人白根学園の光の丘、ぶどうの実、社会就労センターしらねの 3 施設を約 30 名で見学した。

冒頭、磯貝康正学園長から法人の理念や歴史および現状と課題について約 20 分の説明があり、その後、3 班に分かれて 3 施設を見学した。各施設の案内はそれぞれの施設長、笠井真人(光の丘)、多田純夫(ぶどうの実)、根橋達治(社会就労センター)の各氏から頂いた。

白根学園は、自らも障害のある子を持つ三木信之・芳夫妻により、5 人の子供達の生活の場(ぶどう寮)として昭和 35 年 5 月にスタートし、子供達の成長に合わせ、あるいは地域のニーズに合わせて必要となった施設を次々と建設・設置され、現在 21 事業、48 カ所のグループホームを運営されている。基本理念の中心は『愛』であり、600 名(嘱託を含む)の職員が利用定員約 1,200 名の主に知的障害の有る方々をサポートしておられる。

見学した 3 施設は同じ敷地にあり、まるで小さな町(コミュニティ)がそこに出来ているようであった。

○光の丘： 障害者支援施設(施設入所 40 人、生活介護 80 名、短期入所10名)

光の丘は平成 26 年 2 月に建替えられた 4 階建ての施設。建物は管理棟と居住棟に分かれている。

管理棟は 1 階にスタッフルーム、厨房と法人事務室がある。2 階は工房プリズムで約 60 名(近隣に 20 名の作業棟)が活動できる空間となっている。それぞれの障害特性に合わせた活動が用意されて、各エリアは両面棚(横4個×縦3個)約20個と仕切り版で仕切られている。主な製作品として、コースター2種類、等。また、いたるところに利用者の作品が飾られ、廊下には月ごとに変わる大きな作品が貼り出されていた。3階は集会所つつじ、地域交流室あさがお、相談室が設置されており、入口付近には角に2個のソファが配置され、くつろげる空間となっている。4階は展望食堂富士があり、西に富士山、東にみなとみらいの街並みが見える。生活介護事業の利用者が昼食をとるためのスペースと同時に多目的に利用できるホールとしての役割もある。厨房施設もあるが、食事時間外はシャッターで閉鎖。テレビ、カラオケ装置、グランドピアノがある。地域コンサートも行われている。テーブルは角の取れた曲線で彩りも様々に、椅子もかわいい形で約 60 名が一度に利用できる。また、地下(道路に面しては1階)にはCAFELUCEという喫茶店があり、地域交流の場とな

っている。

居住棟は3階建てで、屋上は緑の植え込み(庭園)になっており、展望食堂富士からの眺望の一つとなっている。各階2ユニット(1ユニット10室10名)であるが、玄関は1つ。全て電子キーで開閉される。玄関を入ると正面がスタッフルームになっており、2つのユニットは廊下でつながっている。居室はベッド、ダンス2個にエアコンなどが設置されている。ベランダもあり洗濯物が干せる。キッチンはドアで開閉でき、他のユニットと同様の様子だった。トイレは4個(男子寮は3個)、通常の便器(ウォシュレット付き)、男子寮のみ男子トイレ1個。洗面台3個所(センサー付き)。浴室は2~3人が同時に使え、凝った浴槽と洗い場が2カ所。

○ぶどうの実 : 福祉型障害児入所施設(入所 30 名、短期入所4名[801日]、日中一時[295日]、児童発達[63日]、放課後デイ[88日]) ※[]は平成29年度年間利用者延べ日数

法人の原点ともいえる児童の入所施設で、平成 27 年 10 月に建替えられた 3 階建ての施設である。1階は事務室と入居施設、2階は医務室、療育室等と入居施設、3階はホールにじいろ、更衣室、洗濯室、心理室等が配置されている。

1階 : 2ユニット(すこやか:自閉症及び行動障害児用、男児 8 室9名、かがやき:通常の障害児用、男児 9 室9名)、ユニット毎に玄関あり。

- ① 支援室は真ん中に1室あり、カメラモニター、コントローラ(電気、水道、シャッター、窓のストッパー開閉等)と机・椅子、PC、折り畳みベッドが1セット配置されて部屋はさほど狭くない。夜間は1人で2ユニットを担当する。警察に直接通じる非常ベルを設置。職員は常時 PHS を携帯。
- ② 「すこやか」の部屋は個室で、約 6 畳。備え付けのダンスが2個設置。ドアは鉄製(ストッパー装置付きで、開放も可)、壁は塗り壁、床はクッションフロアだが、水洗いできるように10cm位側壁まで敷き詰めている。窓にカーテンは無く各部屋にシャッターを設置。窓は風通しの為10cmくらい開けられ、支援室でキーパーを外すと、窓は全開可。基本はベッド1式のみ。ベッドの上で跳びはねることがあることからベッドに収納スペースはない。マットは防水性でレンタル、尿漏れなどがあると業者に交換してもらおう。天井も通常より高く、照明もエアコン(単体型)も埋め込み式で、スピーカー設置。ドアの外から照明の明るさとスピーカーの音量調整ができる。ドアの上には小物が収納できるよう棚を設置。
- ③ ユニットリビングには共通スペースとしてソファがあり、全員が着席できるようにしている。木箱でガードされた大型テレビが1台。大きめで存在感のあるテーブルセット(家族会の寄付)が2セット。キッチンは個人の器が使用できるよう収納スペースが有り、炊飯器、レンジ、大きめの食器洗浄機などが設置されているが、オープン

式ではなく、ドアで閉鎖可能。洗面器3個(全てセンサー出水)、男子小便器1個、トイレ3個(特注のステンレス製、約30万円)、汚物流し1個、洗濯機1台、普通の家庭用の浴槽と洗い場。監視カメラ設置。

- ④ 倉庫が1か所あり、利用者の衣類や、備品など収納容量は大。採光用の窓はガラスブロック。各部屋の入口外に作りつけのクローゼットが設置されている。
- ⑤ 施設臭もトイレ臭もなく、掃除も行き届いて、採光も良く、明るく清潔。
- ⑥ 「かがやき」は強度行動障害を想定しておらず、ドアも通常の木製ドア、窓にはカーテンがあり、エアコンや照明も埋め込み式ではない。壁も壁紙貼りで、床もクッションフロア。各部屋には衣装ダンスとチェストが設置されており、洋服、衣類の引き出し2段、上部に棚1段がある。倉庫が3か所。ひとりで入浴できる家庭用ユニットバスが2か所。

2階：2ユニット(はぐくみ:、男性8名、きらめき:女性8名)、ユニット毎に玄関あり。フロアレイアウトは1階とほぼ同様だが、扉は木製、壁は壁紙。部屋にはカーテン(2レール)があり、部屋の高さも通常。

3階：エレベーターの前にホールにじいろ(多目的ホール)があり、今回の見学会の会場でもあった。テーブルや椅子が相当数置かれていて、子どもたちの遊び場所、職員の研修会場として利用。天井が高く、トランポリンもできる。更衣室、会議室、心理室、相談室、洗濯室、倉庫、書庫が併設されている。

〇しらね：社会就労センターしらね(就労継続支援B型20名、生活介護20名)

1階：クリーニング工場

大型の洗濯乾燥機5台とプレス機が配置された工場、某洗濯会社の下請けでクリーニング事業が行われている。ハンディタオルの洗濯と梱包が行われていた。月曜日～金曜日の間活動しているが利用者は自分のペースに合わせて働いている。傍らで、水道メータやパソコンの分解、箱の組み立て、アルミ箔剥がしの作業場もあった。

2階：縫製製品作成など

フロアの半分に作業テーブルが所狭しと設置され、一度に40名が利用できる食堂がある。併せて、集会場などにも利用されている。半分は作業場となっており、ボールペンの組み立て、刺繍タオルの作成、ビーズ製品作りなどが行われている。縫製製品はカードケース(800円)、刺繍ガーゼタオル(600円)等で、刺繍の下絵は職員が行う。

街区版表示の補修作業、公園の清掃を市や区から委託を受け行っている。また、利用者自治会もあり、今年の誕生日プレゼントを選んだりしている。誕生日プレゼントは10種類くらい用意され、自分で選ぶ機会を増やしている。納涼祭や感謝祭、小旅行等の楽しみの機会も豊富に用意されている。

○見学終了後の Q&A

Q1: ここでは就学前の子供から成人、高齢者まで幅広い年齢層の方が一緒に生活されて、一つの社会を作っておられるが、それが良いとお考えからか？

A1: 凄く良いと思っている。ただ、子供達は外で遊んだりするが、実際は施設毎の生活が中心なので、施設間の交流はあまりない。ただ、色々なところで顔を合わせたりするし、全体で行うイベントもあるので実社会に近い。学園は昭和35年に出来ているので58年になり、当初からおられる方もいらっしゃる、この前米寿のお祝いした方もおられる。できるだけ我々の学園の中で生活をして頂けるよう努めている。

Q2: 利用者の高齢化に伴って看取りの問題が出てくるが、どのようにしておられるのか？

A2: ずっと白根で暮らしておられる方もいらっしゃるのですが、基本にご本人のご希望に添えるよう出来ることは学園の中でやれるようにしている。入所施設にもグループホームにも高齢の方がおられ、胃ろうの方もおられる。グループホームでは介護サービスがつかえるので訪問看護、介護を使ってできるだけ白根で生活して頂けるようにしているが、医療的なケアが本格的に必要となると対応できないので、対応できる施設に繋がられるよう相談に乗っている。学園の中で亡くなる方もおられる。

Q3: 建替えの経緯などについては？

A3: 建替えはなかなか進まなかったが、東日本大震災を契機として耐震基準が新しくなったことで大きく前進した。横浜市が動いてくれたので可能となったが、法人も2億円を負担した。

Q4: 高齢化対策の一つとして成年後見人はどの位ついておられるのか？

A4: 施設によりバラツキはあるが、平均して約20%。市からは増やせと言われているが、保護者の方と話をすると、自分が生きている間はできるだけ面倒を見たいと言われる方が多い。世間で言われる程は利用されていない。

以上

平成 30 年 10 月 18 日

白根学園施設見学会(平成 30 年 10 月 12 日)アンケート集約結果

交流部会長 大月和真

1. 満足度

(単位:人)

| 総数 | 満足 | 普通 | 不満 | 白紙 |
|------|-----|----|----|----|
| 23 | 21 | 1 | 0 | 1 |
| 100% | 92% | 4% | 0% | 4% |

2. 良かった点について(グループホームはGHとさせていただきます。以下同じ。)

(1) 満足と回答の方

- ① あちらこちら見せて頂き様子がよく分かった。説明も皆さん分かり易かった。
- ② 各棟においてよく整備されていると感じた。横浜市のルールの中でうまく運営されていると思った。
- ③-1 入所利用者の年齢層が幅広い施設だった。親切に何でも見せてもらえて感謝！！です。
- ③-2 基本は個室になっていて、個人の生活と集団の生活が両立していたこと。
- ④ 新築で綺麗な建物。ただ、人数の割には手狭な感じがあった。利用者は物静かで落ち着いて作業をしていた。
- ⑤ 新しい建物はゆとりがあり、明るくてうらやましいです。障害児の支援に当たる職員の皆さん、本当に頭が下がりました。
- ⑥ 建物が新しく、掃除も行き届き、職員さんの感じも良かったです。とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ⑦ きれいに清掃ができていた。
- ⑧ 新しい施設の姿が見られて良かった。
- ⑨ 広く利用者に合わせた支援をされていると思いました。
- ⑩ 広さ。
- ⑪ ステンレスの便器は良かった。
- ⑫ 児童、成人、通所、入所、GH、作業所と多角的に行っている施設を見ることが出来た。
- ⑬ 少人数で周り、担当者の説明が分かり易く聞き取り易かった。
- ⑭ 説明が丁寧だった。

- ⑮ 良い施設(掃除が行き届いた)でありました。管理もよくて良かったです。
- ⑯ 施設長さんたちが熱心にご説明して頂けた。
- ⑰ 幅広い運営に驚きました。市民局や土木事務所から依頼を受けて外での活動があるのは、今までの積み重ねで信頼感があるからでしょう。
- ⑱ 見るべきところが多く大変参考になりました。
- ⑲ 全体的に明るく、きめ細かな配慮が至る所で見る事が出来参考になりました。

(2) 普通の回答の方

- ① 建物が新しいので明るくて良い。個室もリビングも広くてゆったりで良いです。

(3) 白紙の回答の方

- ① 場所にもよりますが、物があまり出ていない点。天井が高く、照明、空調などの設備の埋め込み等が良いと思いました。地域とのふれあいが多いいのではと思えました。

3. 改善点について

(1) 満足と回答の方

- ① 見学するこちらが高齢になったため少し疲れた。
- ② やはり風呂はちょっと狭いのではないか？(設計上の拘りのこと)
- ③ 入所施設利用者が今後高齢化した場合、現在の風呂場では支障があるという点が気になりました。
- ④ 破けた壁紙は上下に分けたらどうか。
- ⑤ 将来、鍵無しができるとう良いですね。
- ⑥ 医療設備、調理施設、職員研修なども見たいです。
- ⑦ タイル風呂の角面に丸みをつけて怪我の無い様にすべきだと思います。

4. 来年の施設見学会への要望(施設名、見学のポイントなど)

- ① 未だ訪問していない、又は10年以上訪問していない施設の現状を見たい。
- ② 継続して、様々な施設を拝見したい。
- ③ 重度障害者の施設。

以上